

預金市場の競争度と市場規律

鹿児島大学 永田 邦和

預金市場の市場規律が機能するためには、預金者が銀行のリスクに反応して預金を引き出すことが必要である。都市銀行や地方銀行の店舗数が多い地域では、信用金庫の預金者は預金の新たな預け先を容易に見つけられるので、預金者は信用金庫のリスクに敏感になると思われる。一方で、大規模銀行への信頼感から、都市銀行や地方銀行の店舗数が多い地域では、預金者はリスクを考慮せずに預金を引き出す可能性がある。強力な競争相手である都市銀行や地方銀行の店舗数が、信用金庫の預金者のリスク感応度、つまり預金市場の市場規律にどのように影響しているかは事前に予想できない。本稿では、信用金庫を対象にして、預金市場の競争度が市場規律に与える影響を検証する。

本稿では、預金市場の競争度を都市銀行や地方銀行の店舗シェアで定義する。都市銀行や地方銀行の店舗シェアによりサンプルを分割し、サンプルごとに預金残高を信用金庫のリスク指標で回帰する。サンプルごとの推定結果を比較し、都市銀行や地方銀行の店舗シェアが信用金庫の預金者に与える影響を明らかにする。

本稿の推定結果は、以下の通りである。都市銀行の店舗シェアの低いサンプルでは、店舗シェアの高いサンプルよりも、事前の予想通りの符号で有意になる説明変数が多い。また、普通預金のペイオフが解禁になる直前の 2001 年度を対象にした推定においても、同じような結果が得られた。ただし、都市銀行と地方銀行の店舗シェアの合計でサンプルを分割したところ、サンプル間での違いは見られなかった。

以上の考察より、都市銀行の店舗を利用できる地域では、信用金庫の預金者は、都市銀行への信頼感や *too-big-to-fail* 政策への期待により、リスクを考慮せずに預金を引き出している可能性があるが示された。